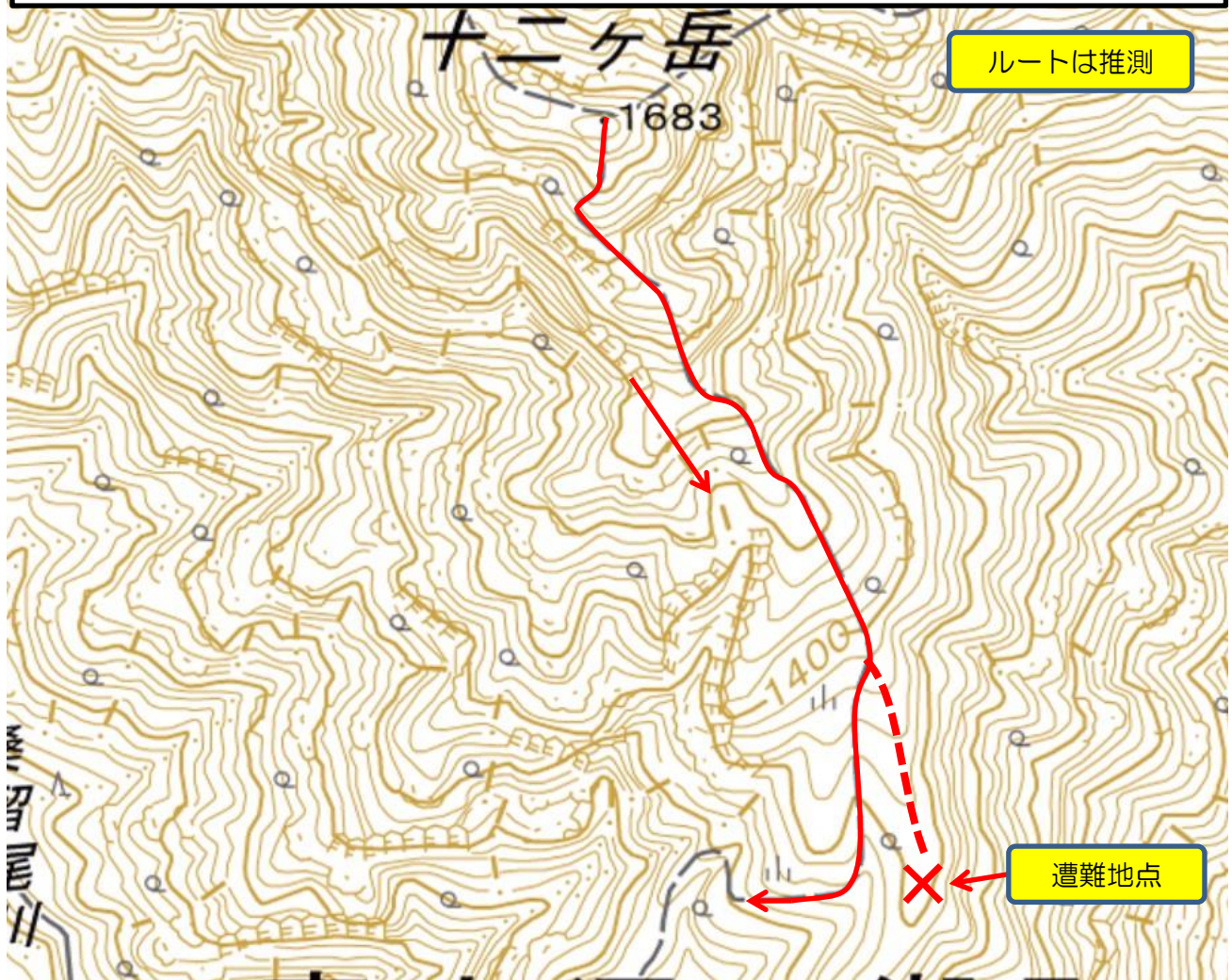


十二ヶ岳遭難(2023年10月)

47歳、16歳の男性2人。下山中、道に迷い救助要請し、地上救助隊が救助した。



解説

道迷いの三大地形は「下りの尾根分岐」、「急に道が曲がる」、「ピークからの下り」の地形。今回の事例は、道が曲がっていて、沢を下るのが正しいルートなのだが、そのまま直進してしまい、尾根上で道迷いに気づき救助を求めたもの。救助の時間が16時で夕暮れ間近というあせりもあっただろう。比較的、早い時間帯に救助を求め、これ以上状況が悪くならないように対策をしたのはある意味正解なのかもしれない。

現在位置が分からず、道が無くなった場合は、「来た道に戻る以外に方法はない」のだが、道迷いの心理は戻る事すらできなかったのだろう。

一方で、救助された場所は、正ルートとほんの少ししか外れていないので地図アプリを使用していれば正ルートに戻れそうな気もするが、恐らく地図アプリを使用していなかったのだろう。

『レジャー白書2022』によれば、登山の参加人口は440万人(21年度)といわれている。これだけ多くの方が登山をするので、もっと多くの方に地図アプリを知ってもらい、道迷い遭難が減少することを祈っているし、もっと優れた地図アプリの周知をしていきたい。